

平成 17 年度報告書刊行にあたって

秋道智彌（総合地球環境学研究所）

平成 17 年度の報告書をようやく刊行することができました。前年度（平成 16 年度版）よりも大幅に遅れたことを関係者一同に深くお詫び申し上げます。とはいえ、前年度にくらべて内容の質と量ともにたいへん充実したものになっています。これまでの成果の蓄積にたったものであるからにはほかなりません。

1 昨年度の 3 月に G・Condominas 先生をお招きしてのシンポジウム「歴史と環境」を開催して以来、今年度の前半にはラオス、中国でのワークショップやアイスランド、オーストラリアでの学会発表にくわえて国内での学会での分科会発表など、海外・国内への発信が活発におこなわれ、頼もしいかぎりです。中国の雲南大学との協定も一段落し、北京から生態史の成果である 2 巻本の 1 冊を 3 月に出版することもできました。

一方で、生態史プロジェクトの研究期間はあと 1 年半をのこすのみとなりました。法人化以降は、予算額の減額など厳しい状況の中で研究計画の大幅縮小を余儀なくされ、班員のみなさまにはたいへんな無理をお願いすることになりました。財源の不足を補填することも十分できないことで心残りではありますが、いずれにせよ大型予算をもとにした研究の成果を発信することは当然のことであり、今後の指針をこの 2 月の大垣での全体会議でおはかりしました。

いうまでもなく、研究期間終了までに成果発信を先行させる戦略が重要と考えています。個別の成果が着実に蓄積されているとはいえ、個別研究を連携させ、より大きな生態史の枠組みで位置付けるための努力がようやくなされだしています。公募による連携研究の推進がそれであり、今後の進捗が期待されています。とはいえ時間的な制約からまとめへ向けて集中する必要があります。

この 7 月には図録 1 巻本と論集（3 巻予定）の出版にむけて大まかな了解を東京の出版社と取り交わすことができました。同一の出版社ということで、図録と論集を有機的に結びつけた編集をおこなうこともご理解いただいています。本年度中には図録のめどをつけ、来年度末までに論集の完成を目指すこととしました。今後、執筆依頼などへの対応をよろしくお願い申し上げます。したがって、報告書の刊行はこれをもって終了し、これらの成果を踏まえた図録と論集、さらにはこれら以外の学会誌、単行本をふくめた学会、社会発信へ向けて一層励まれますよう心からお願いを申し上げます。